

# — 田川市都市計画マスタープラン —

## 第 2 回委員会資料

### □ 目 次 構 成 □

① 都市の現況と課題について……………	1
1. 社会・経済情勢における潮流……………	1
2. 市民意向の反映……………	1
3. 都市の現状と課題……………	2
② 都市づくりの目標について……………	3
1. 都市づくりの基本理念……………	3
2. 都市づくりの基本方針……………	3
3. 目標年次及び将来フレームの設定……………	3
4. 将来都市構造……………	5

平成 22 年 1 月 25 日

田 川 市

## 1 都市の現況と課題について

### 1. 社会・経済情勢における潮流

#### (1) 社会・経済的需要

##### ① 人口減少・超高齢社会の到来

- ・増加の一途をたどってきた日本の総人口は、平成 17 年から減少に転じ、近年はほぼ横ばいで推移していますが、少子化傾向から今後も人口減少の傾向は続くものと見込まれています。
- ・減り続ける年少人口・生産年齢人口に対し、老年人口は一貫して増加しており、人口減少・超高齢社会を見据えた都市整備のあり方が求められます。

##### ② 環境負荷の軽減に向けた意識の高まり

- ・地球規模の環境変化によって局所的な豪雨等の異常気象が発生しており、国民の環境問題に対する関心も高まっていることから、緑地等の自然環境の保全と併せ、地球温暖化防止に向けた積極的な取り組みが求められます。
- ・地球環境問題への取り組みの中で、二酸化炭素の削減は大きな課題であることから、自動車からの CO<sub>2</sub> 排出量を削減するため、現在の自動車依存の高い交通環境を見直し、低炭素型社会への転換にむけた都市づくりが必要とされます。

##### ③ 経済のグローバル化と都市間競争

- ・産業構造の転換、情報化社会の進展等を背景とした経済のグローバル化により、企業の立地や優秀な人材の活躍の場等の選択において、国内外を問わず選択される都市間競争の時代となっており、それぞれの都市が有する特性や資源、魅力を活かした都市づくりが必要です。

##### ④ 財政縮小と地方分権社会への対応

- ・人口減少や高齢化の進行は、労働力の減少による都市の生産活動を低下させ、新しい投資余力の低下に大きな影響を与える一方、既存の社会資本の維持コストは確実に増加し、財政的制約はますます厳しくなるものと考えられます。
- ・地方分権社会を向かえ、市町村が主体的に政策を決定することが可能となりつつありますが、自己責任による自律的な都市経営を行うことが求められます。

#### (2) 都市政策上の視点

##### ① 集約型都市構造の構築及び中心市街地の機能回復

- ・人口減少・超高齢社会への対応や環境負荷を軽減する効率的な市街地の形成
- ・都市の中核を担う中心市街地の都市機能の集約による賑わいの回復

##### ② 防災対策や福祉の充実による安全・安心な都市の形成

- ・防災対策や防災まちづくりへの積極的な取り組み
- ・超高齢社会を見据えたユニバーサルデザインの推進

##### ③ 拠点間ネットワークの連携強化と拠点の魅力の向上

- ・効率的な都市構造を構築するための拠点間ネットワークの強化
- ・地域特性に応じた拠点の魅力づくりと機能集積

##### ④ 地域資源を活かした個性的で魅力あるまちの創出

- ・歴史や文化などの地域資源を活かした特色あるまちづくりの推進
- ・良好なまちなみ景観の保全や形成による魅力あるまちの創出

##### ⑤ 地域住民のまちづくり参加と公民協働の取り組みの推進

- ・地域の魅力づくりや効率的な市街地形成を進めるためのまちづくりへの市民参画
- ・防災・防犯等に対応したまちづくりや都市施設等の管理運営などへの市民参加

### 2. 市民意向の反映

#### ① 居住環境の満足度(問7)

- ・自宅周辺の自然環境、身近な道路の利用のしやすさ、水道供給に対して満足度が高い。
- ・商店、就業の場、娯楽・レジャー施設など、賑やかさの少なさに対する不満が高い。
- ・歩道、駐車場・駐輪場、公共交通機関の少なさや不便さに対する不満が高い。

#### ② 今後のまちづくりにおいて特に大事だと考えられる項目(問8)

- ・医療施設の利便性、働き場所の確保、公共交通機関の利便性が上位。

#### ③ 日常生活の行動(問9)

- ・日用品の購入先は、国道 201 号沿いとその他の市内が多い。
- ・日用品購入の交通手段は、自家用車が多い。
- ・買回り品の購入先は、国道 201 号沿いとその他の市内が多い。
- ・買回り品購入の交通手段は、自家用車が多い。
- ・通勤通学の交通手段は、自家用車が多い。

#### ④ 望まれる住環境(問10)

- ・生活利便性、地域コミュニティでの安心、公共交通機関の利便性が上位。

#### ⑤ まちの将来イメージ(問11)

- ・保健、医療、福祉の充実したまちが多い。

#### ⑥ 今後、力を注ぐべき分野(問12)

- ・医療・福祉の充実、市街地や商店街の活性化、工場などの産業振興が多い。

#### ⑦ 駅前商業地について(問13)

- ・伊田駅周辺は、「市の顔としてのシンボル機能」と「賑わい機能」が多い。
- ・後藤寺駅周辺は、「賑わい機能」と「医療・福祉機能」が多い。
- ・今後の商業地の発展形態としては、「商店街の活性化」、「駅周辺の再整備による商業施設の集積」が多い。

#### ⑧ その他、土地利用や都市施設などについて(問15～問19)

- ・緑地の保全整備で重点的に取り組むことでは、「市街地内の緑を増やす」、「里山や河川沿いの緑地を積極保全」が多い。
- ・都市における公園、緑地のあり方では、特に突出した傾向はないが、目的を持った公園よりも身近に憩える街区公園や自然公園を望む意見が多い。
- ・すべての人が安心して暮らせるために大切なことでは、バリアフリーの促進、福祉施設の充実が多い。
- ・災害に強いまちにするための優先的取り組みでは、ライフラインの強化・充実、建物の耐震化・不燃化が多い。
- ・美しい景観を守り育てていくために大切なこととしては、道路空間の緑化や電線地中化、良好な自然環境や田園景観の保全が多い。

#### ⑨ 都市計画道路について(問20～問26)

- ・都市計画道路の認知度では、知らない人の割合が過半数を超えている。
- ・未着工道路の認知度は、7割以上が知らない。
- ・変更及び廃止の検討の重要度は、過半数が重要と考えている。
- ・道路の役割で重要なこととしては、人や物の移動の便宜、避難路としての役割が多い。
- ・道路状況への不満としては、公共交通手段の少なさ、歩道の少なさ、道路の狭さに対する不満が高い。
- ・交通対策として力を注ぐ分野は、歩道や自転車道の整備、バス路線の見直しが多い。
- ・今後の道路整備で重要視することとしては、高速道路へのアクセス、渋滞対策が多い。

## 3. 都市の現況と課題

### (1) 拠点形成に関する課題

#### 《都市の特性と問題点》

- ・田川市への通勤依存度が10%以上の町村を含めた**田川都市圏としての広域的な都市機能が不足**している。
- ・本市には、市民の日常生活の中心となる拠点が2つ（伊田商店街、後藤寺商店街）存在しており、**双方ともに商業機能が低下**している。
- ・市街地中心部には様々な拠点が点在するが、**拠点間の相互連携が行われておらず**、拠点機能の相乗効果が見られない。

#### 《都市づくりの課題》

##### ① 広域を担う新たな拠点づくり

- ・田川都市圏を見据えた広域都市機能の集約
- ・2つの商業地の役割と機能の分担

##### ② 拠点間の相互連携による効率的な都市づくり

- ・市街地内の様々な拠点の相互連携
- ・拠点機能の相乗効果による効率性の確保

### (2) 交通体系に関する課題

#### 《都市の特性と問題点》

- ・東西方向の広域幹線道路を結ぶ**南北方向の道路や市街地内の循環道路が不足**している。
- ・公共交通機関へのアクセシビリティや交通結節機能が低いことにより、**公共交通の利用者数の低下**が続いている。
- ・社会経済情勢の低迷による財政悪化に伴って、**長期未着手となっている都市計画道路や都市計画事業等の実現見通しが立たない**状況にある。

#### 《都市づくりの課題》

##### ③ 効率的な市街地形成のための交通施設の整備

- ・南北軸の整備による広域交流軸の形成
- ・市街地内循環道路網の形成
- ・交通結節機能の強化と公共交通の充実

##### ④ 都市計画道路の長期未着手路線の見直し

- ・将来都市構造の構築による必要な道路の選定
- ・必要性・実現性の低い都市計画道路の廃止

### (3) 土地利用に関する課題

#### 《都市の特性と問題点》

- ・用途地域内と同規模の人口が用途地域外に存在している。
- ・用途地域外の**開発動向が用途地域内を上回っている**。
- ・日常生活の拠点となる**2つの商業地の活力低下**がみられる。
- ・企業撤退などによる**工業団地の空き区画**がみられる。
- ・広域から人を呼び込む地域医療の中核病院や大学が点在しているが、他の**拠点や公共交通との連携が図れていない**。
- ・観光・レクリエーション施設同士や他の拠点との連携が低く、**相乗効果が図れていない**。

#### 《都市づくりの課題》

##### ⑤ 地域特性に応じた土地利用の規制と誘導

- ・土地利用規制や誘導方針の検討
- ・良好な農地の保全と調和を図った土地利用方針の検討

##### ⑥ 産業基盤の整備改善等による地域活性化

- ・農商工の基盤の整備改善による地域活性化
- ・分散立地する大規模工場の立地誘導

##### ⑦ 地域資源を活かしたまちの魅力づくり

- ・既存の拠点施設を活かした新たな魅力の創出
- ・観光、レクリエーション施設や他の拠点の連携

### (4) 都市・自然環境に関する課題

#### 《都市の特性と問題点》

- ・駅および駅周辺地域が、**まちの顔にふさわしい景観になっていない**。
- ・市の中心部に集中する多様な都市公園と他の拠点との連携不足により**人の流れに広がりがない**。
- ・市街地形成上の骨格要因となる**2つの主要河川が活用されていない**。
- ・国定公園などの山々に囲まれた**自然環境や歴史文化などの地域特性が活かされていない**。

#### 《都市づくりの課題》

##### ⑧ 豊かな自然や歴史・文化の保全・活用

- ・駅前景観の整備によるまちの顔づくり
- ・地域資源や河川、公園の連携強化による緑の軸の形成
- ・自然と調和した土地利用誘導による豊かな自然環境の保全

## 2 都市づくりの目標について

### 1. 都市づくりの基本理念

#### (1) 都市の将来像

本市が担うべきまちづくりの課題としては、田川都市圏における定住促進を図ることにより、過疎化の進行を抑制することが重要です。このため、本市が目指す都市の将来像としては、市民生活をより良いものにするを念頭において設定しました。

人が居住するには、安心して生活できる居住環境と、活気のある産業活動が必要不可欠であり、その前提条件が整ってはじめて“ゆとりと潤いのある生活”を営むことができることから、最上級の生活を表現する言葉として採用しています。

また快適に生活する要素としては、地域の歴史や文化を共有し、地域コミュニティを深めていくことが重要であることから、市民が楽しく交流する“にぎわい（文化交流）都市”を目指したいと考えます。以上の考えを踏まえ、都市の将来像を以下のように設定します。

**(仮) ゆとりと潤いのある生活 にぎわい文化交流都市 たがわ**

**(仮) ゆとりと潤いのある にぎわい都市 たがわ**

#### (2) 基本理念

都市の将来像を実現するため都市づくりの考え方として、以下の3つの基本理念を踏まえたまちづくりを推進します。

#### ①人が集い、働き、行き交うにぎわいのあるまちづくり

都市機能や多様な産業が集積し、人々が集い、働き、行き交う都市・地域の拠点形成するとともに、道路交通網の整備による地域間及び拠点間の連携強化を図り、にぎわいのある（文化交流）都市の形成を進めます。

#### ②都市と自然が共生し市民が豊かさや潤いのある生活を営めるまちづくり

田川市の緑や川などの自然を守り育て、都市と自然が共生するまちづくりを進めるとともに、子どもから高齢者までの誰もがゆとりと潤いのある生活が営める安全・安心なまちづくりを進めます。

#### ③市民と行政が共に創る個性と魅力あるまちづくり

地域の特性を熟知している住民と行政が協働して、お互いの主体性や特性を尊重しながら、地域の個性と魅力を最大限に活かすことができる市民参加体制の構築と公民協働のまちづくりを進めます。

### 2. 都市づくりの基本方針

#### (1) 広域都市拠点の形成・充実と集約型都市づくり

- 田川広域圏における新たな広域都市拠点の形成
- 既存施設や土地を生かした様々な拠点の配置と機能充実
- 既成市街地の居住促進と市街地拡散の抑制による効率的な市街地の形成

#### (2) 拠点ネットワークの形成と拠点連携型都市づくり

- 地域・拠点間の交通ネットワークと機能の充実
- 各拠点の連携による相乗効果の促進
- 市民にやさしい公共交通づくり

#### (3) 多様な地域資源を活かした魅力ある都市づくり

- 歴史や文化などの個性を活かしたまちの魅力づくり
- 既存の商業・産業・医療・教育拠点を活かした新たな魅力の創出
- 駅前と周辺地域の景観形成によるまちの顔づくり

#### (4) 安全に安心して健康に暮らせる都市づくり

- 既成市街地内の市街地環境の改善
- 地域特性に応じた土地利用の規制・誘導による居住環境の保全
- 災害時の避難場所や経路の周知などの防災対策の強化

#### (5) 豊かな自然や歴史・文化にふれあえる都市環境づくり

- 豊かな自然環境の保全
- 緑の軸の形成によるやすらぎと潤いに満ちた都市環境の創出
- 歴史・文化とふれあい、個性を育む都市づくり

#### (6) 市民とともにかたちづくる協働の都市づくり

- 市民と行政が一体となってまちづくりを進められる体制の構築
- まちづくり活動の担い手の育成

### 3. 目標年次及び将来フレームの設定

#### (1) 目標年次

本マスタープランは、長期的な視野からおおよそ20年後を見据えることとし、平成42年（2030年）を目標年次として設定します。

また、総合計画等との整合を図る観点から、おおよそ10年後となる平成32年（2020年）を中間年次として設定し、内容の見直し等を行います。ただし、社会経済情勢の変化によってまちづくりの方針を変更せざるを得ない場合には、必要に応じて本マスタープランの修正を行うこととします。

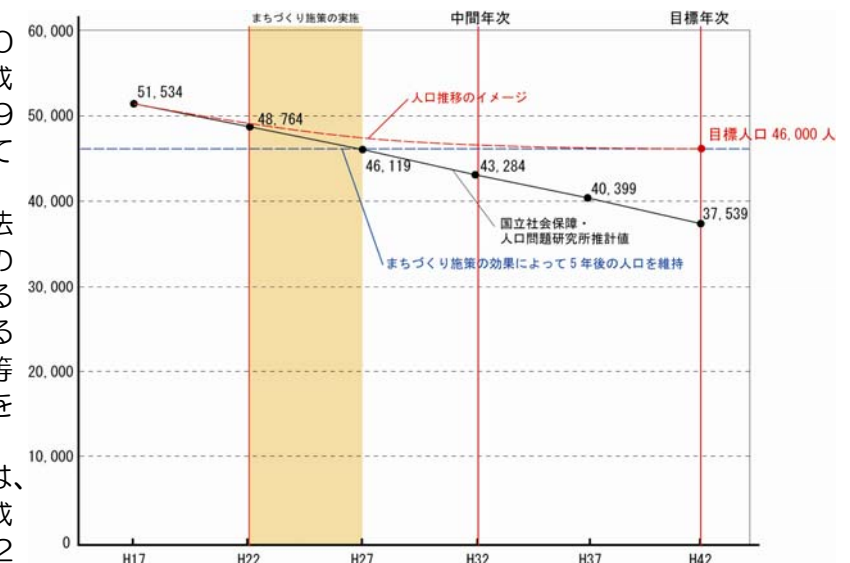
#### (2) 将来人口

国立社会保障・人口問題研究所が平成20年12月に推計した本市の将来人口は、平成32年に43,284人、平成42年に37,539人となり、今後人口減少が予測されています。

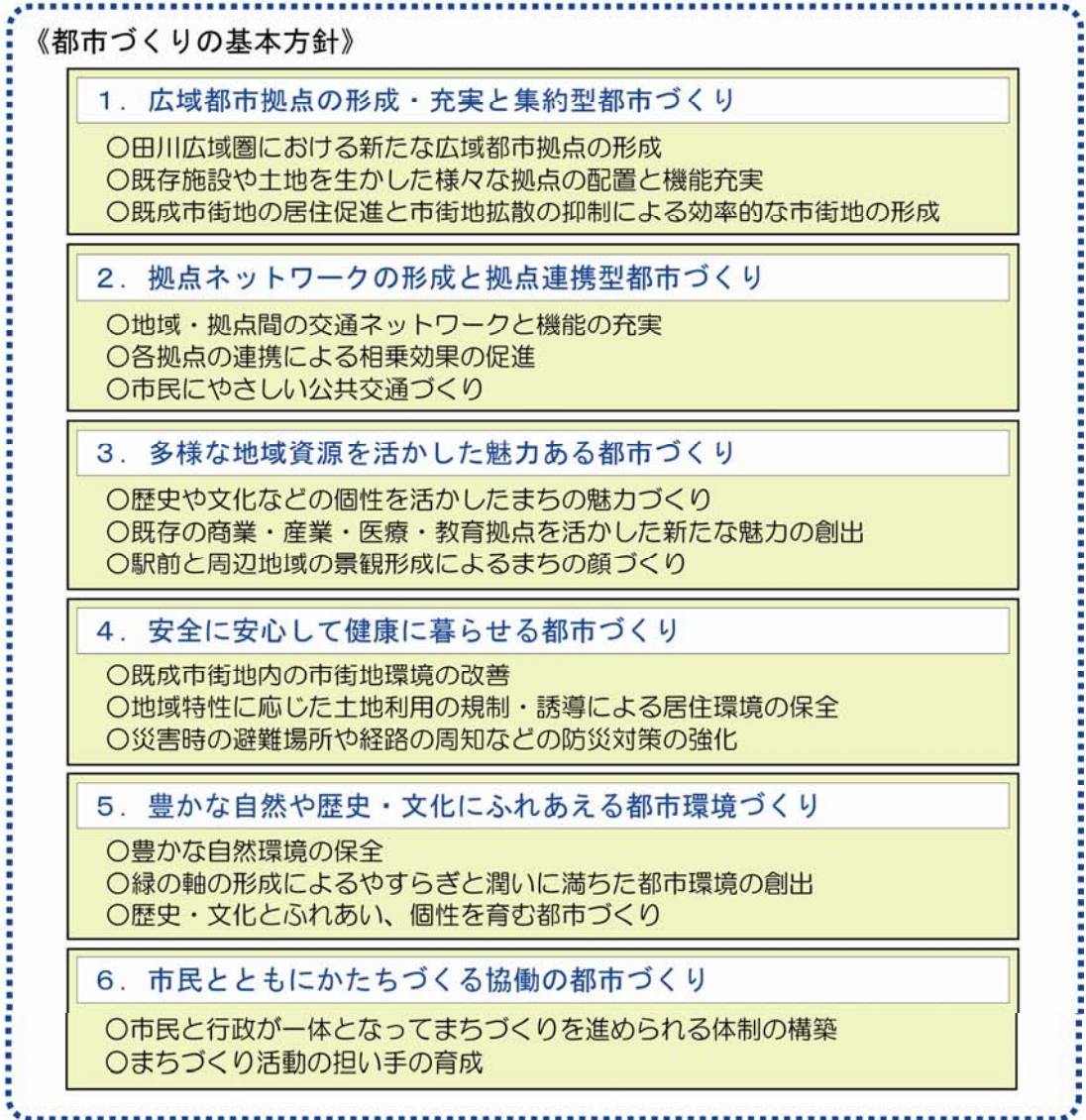
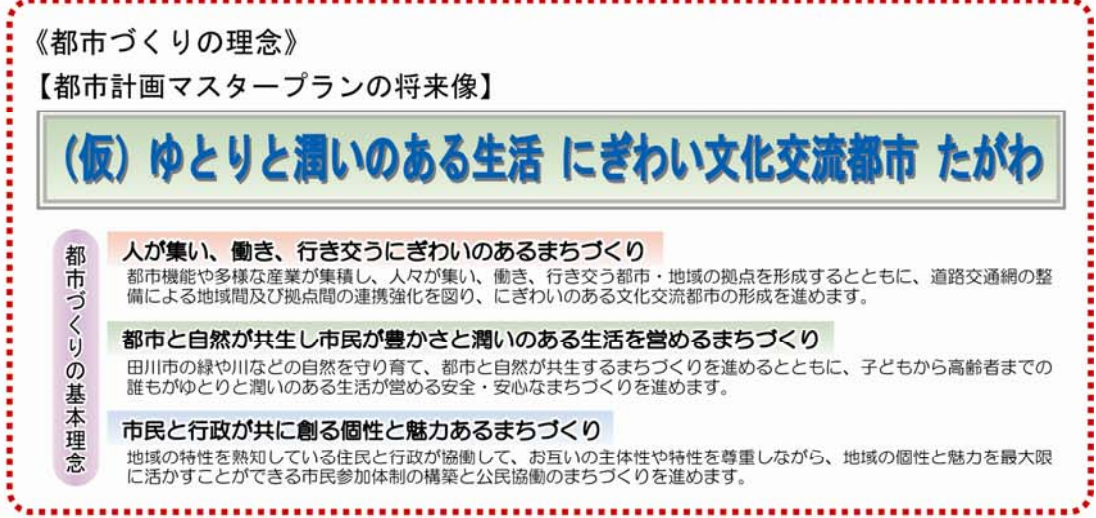
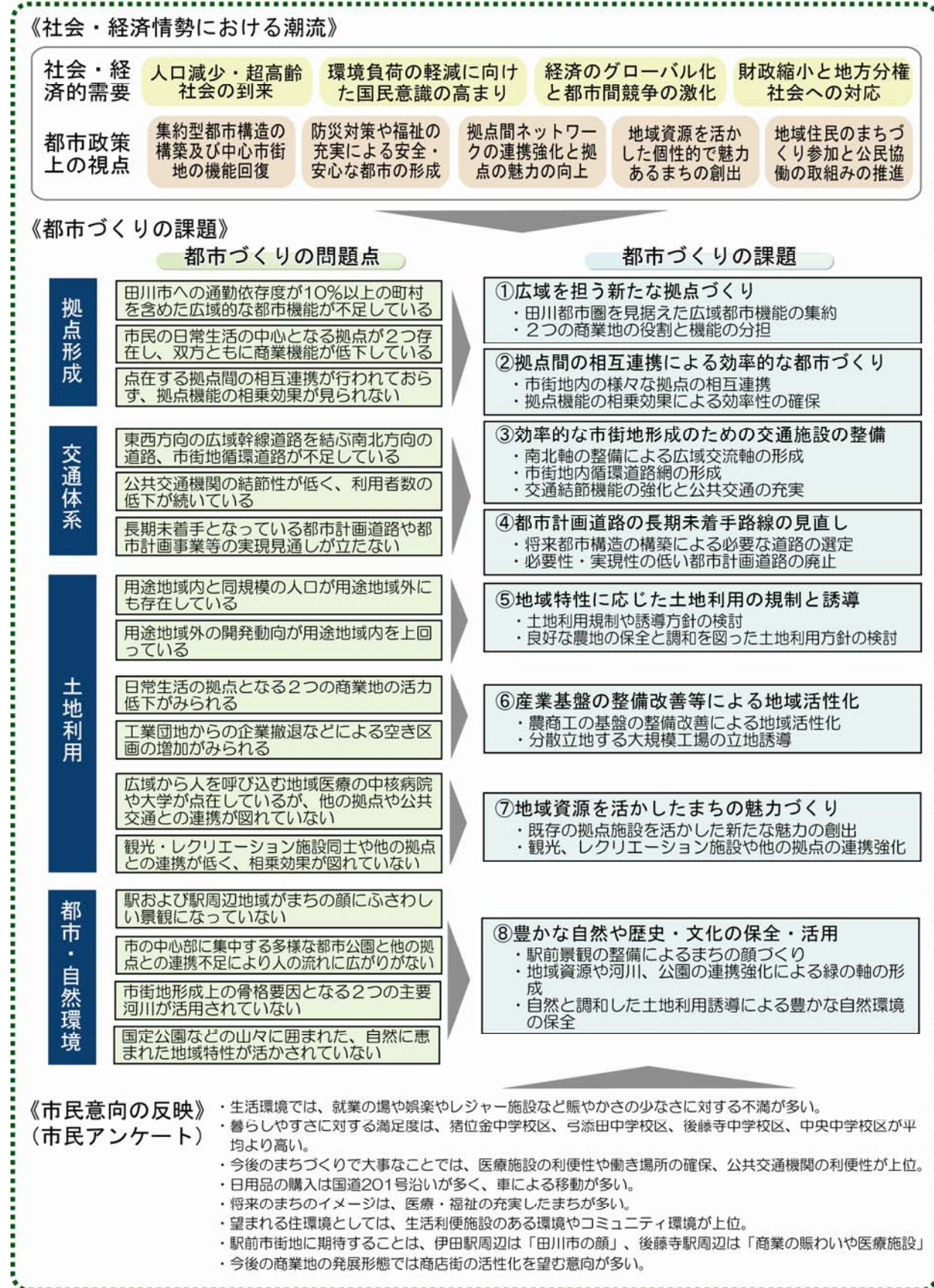
ただし、この人口推計はコーホート要因法による推計であり、H12からH17までの5歳階級毎の実績データに基づく推計であるため、子育て支援やまちづくり施策等による効果は加味されません。既に、子育て支援等の国政によって日本の総人口は将来見通しを上回っています。

定住促進を目標とする本マスタープランは、まちづくり施策の効果が表れる5年後（平成27年）の人口を維持することとし、平成42年の目標人口を以下のように設定します。

**平成42年人口 46,000人**



## 参考資料 まちづくり基本方針の体系



# 田川市都市計画マスタープラン

## 4. 将来都市構造

### (1) 拠点形成：広域都市拠点の形成と拠点の適正配置

本市には、市民の日常生活基盤となる2つの商業地（田川伊田駅周辺地区、田川後藤寺駅周辺地区）が存在しますが、今後はこの2つの商業地のうちの1つを田川都市圏の中心的役割を担う広域都市拠点として発展させていく必要があります。

このため、この2つの商業地の特性を比較し、広域都市拠点に相応しい商業地を選定します。

#### ①田川都市圏の状況

田川市は、昼夜率が1.1以上となっており、周辺市町からの依存度は高い状況にあります。

福岡県内の通勤依存度をみると、田川市には6町1村が10%以上依存している状況にあり、これが田川都市圏の範囲となります。

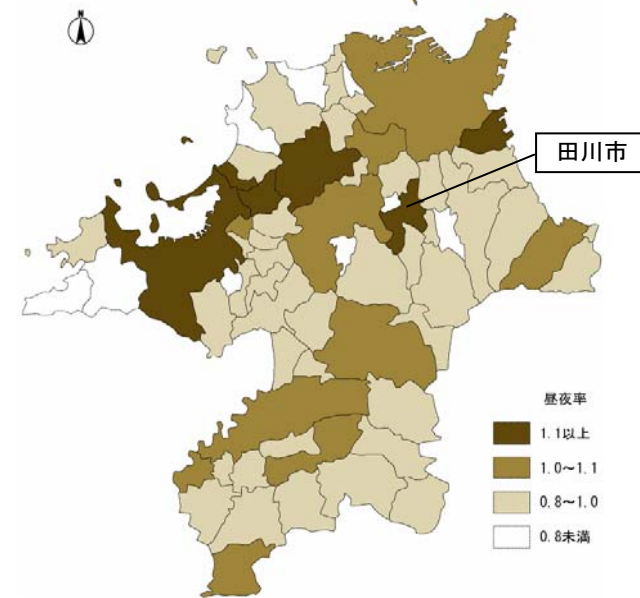
広域都市拠点は、田川都市圏の14万人の中心地として、都市機能の充実を図っていく必要があります。

#### ■都市圏の人口規模（H17）

都市圏名	都市圏人口
田川広域圏	140,736人
飯塚広域圏	193,821人
直方・鞍手広域圏	115,584人
久留米広域圏	465,712人
北九州都市広域圏	1,137,622人
福岡都市広域圏	2,323,070人

出典：国勢調査

#### ■昼夜率（H17）



出典：第4次福岡県国土利用計画

#### ■福岡県内の通勤依存度の状況

	平成2年			平成17年		
	30%以上	20%以上	10%以上	30%以上	20%以上	10%以上
福岡市	筑紫野、春日、大野城、大宰府、前原、古賀、那珂川、宇美、篠栗、志免、須恵、新宮、久山、粕屋、福岡二文 (16市町)	小郡、宗像、津屋崎、志摩 (4市町)	玄海、筑穂、三輪、夜須 (4町)	筑紫野、春日、大野城、大宰府、前原、古賀、那珂川、宇美、篠栗、志免、須恵、新宮、久山、粕屋、福岡二文 (16市町)	小郡、宗像、津屋崎 (3市)	筑穂、筑前 (2町)
甘木市		三輪 (1町)	朝倉 (1町)		朝倉、筑前、太刀洗 (3市)	
前原市(前原町)			二文、志摩 (2町)		二文、志摩 (2町)	
久留米市		北野、三瀬、広川 (3町)	八女、筑後、小郡、田主丸、太刀洗、城島、大木 (7市町)		広川 (1町)	うきは、八女、筑後、小郡、太刀洗、大木 (6市町)
八女市			上福、立花 (2町)		黒木、上福、立花、広川 (4町)	
大川市			柳川、城島 (2市町)		大木 (1町)	
飯塚市		稲築、穂波、庄内、諺田 (4町)	山田、小竹、桂川、穂波、穂井、高穂、筑穂 (6市町)		山田、小竹、桂川、穂波、穂井、高穂、筑穂 (7市町)	
田川市	香春、糸田、川崎、大任、赤 (5町)		添田、金田、赤池、方城 (4町)	香春、糸田、川崎、大任 (4町)	添田、金田、赤池、方城、赤 (5町)	
直方市			小竹、宮田、赤池 (3町)		小竹、鞍手、宮田、赤池 (4町)	
北九州市	中間、水巻、岡垣、遠賀 (4市町)	芦屋、苅田 (2町)	直方、行橋、宗像、鞍手、香春、犀川、穂山、豊津、椎田、築城 (10市町)	中間、芦屋、水巻、遠賀 (4市町)	岡垣、苅田 (2町)	直方、行橋、鞍手、香春、犀川、穂山、豊津、築城 (8市町)
行橋市		豊津 (1町)	犀川、穂山、築城 (3町)		豊津 (1町)	苅田、犀川、穂山、椎田、築城 (5町)
豊前市			吉富、新吉富、大平 (3町村)		吉富、新吉富、大平 (3町村)	
苅田町			行橋、穂山 (2市町)		行橋、穂山、豊津 (3市町)	

資料) 総務省「国勢調査報告」

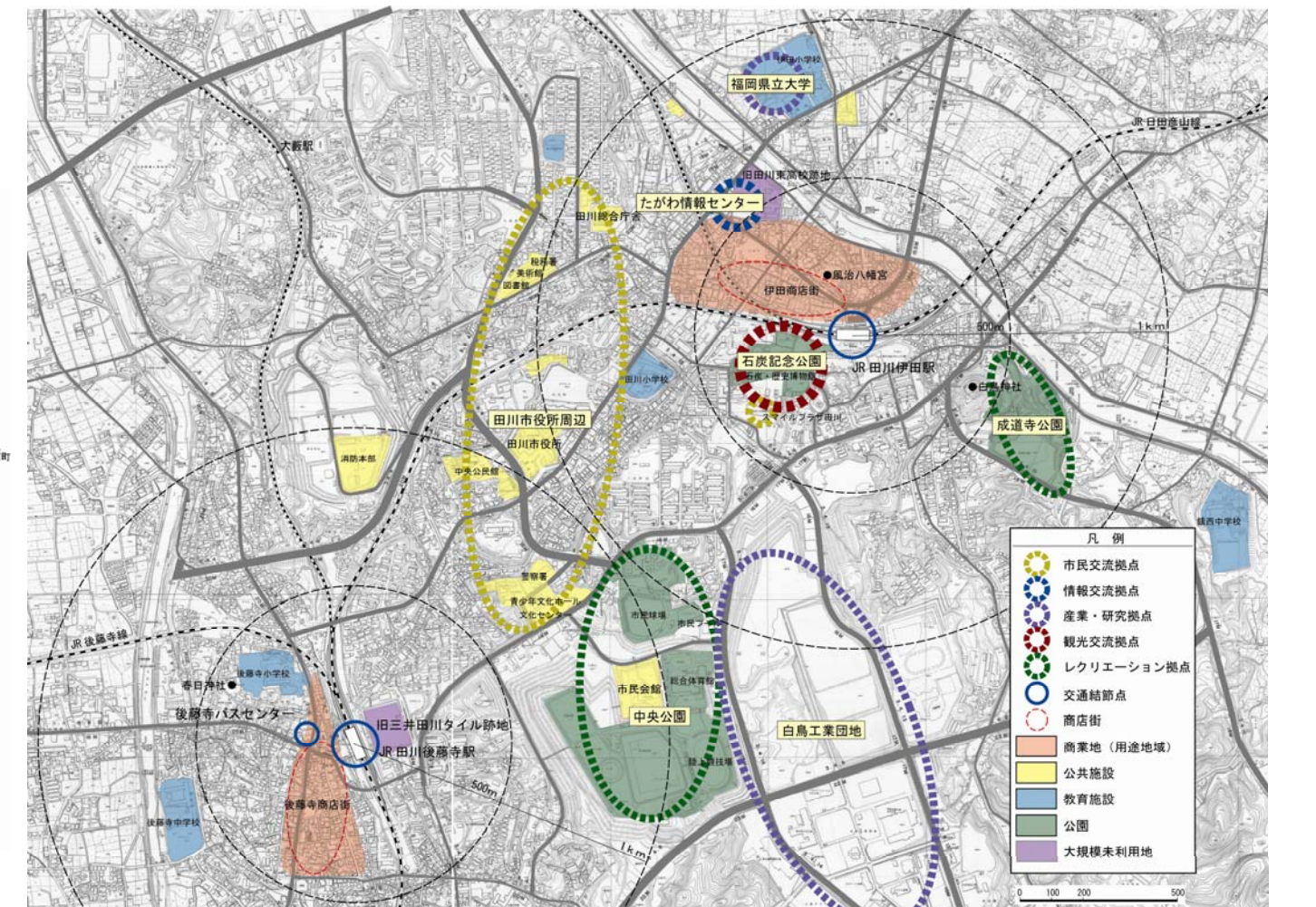
#### ■田川都市圏（圏域）



### ②商業地の機能比較

2つの商業地を比較すると、田川伊田駅周辺地区は駅周辺に様々な拠点機能を有し、拠点連携による相乗効果が期待できるほか、旧田川東高校跡地をはじめ徒歩圏内に大規模な土地活用が可能な土地が存在し、今後の発展が期待できます。また、1日当乗降客は田川後藤寺駅が多くなっていますが、商店街の歩行者数は田川伊田駅周辺地区が多く、国道201号へのアクセス性においても優位であることから、将来的に広域都市拠点を形成するうえでは田川伊田駅周辺地区が適しています。

	田川伊田駅周辺地区	田川後藤寺駅周辺地区
交通機能	1日当り乗降客：3,009人(H16) 歩行者交通量：1,299人/平10h ⇒ 1,812人/平10h (H20.9⇒H21.9) 伊田郵便局前 交通結節機能：JR、平筑、西鉄バス、ふれあいバス	1日当り乗降客：3,024人(H16) 歩行者交通量：1,242人/平10h ⇒ 1,202人/平10h (H20.9⇒H21.9) 鮮魚の穴井前 交通結節機能：JR、平筑、後藤寺バスセンター、ふれあいバス
商業機能	店舗数：215店舗 空店舗：36店舗(アーケード内)	店舗数：227店舗 空店舗：45店舗(アーケード内)
拠点機能	500m圏：伊田商店街、石炭記念公園、成道寺公園、たがわ情報センター、スマイルプラザ田川、風治八幡宮 1km圏：福岡県立大学、田川総合庁舎、市役所、図書館、美術館、中央公園、白鳥工業団地	500m圏：後藤寺商店街、春日神社 1km圏：市役所、文化センター、青少年文化ホール、中央公園、警察署、消防本部
市街地動向	・旧田川東高校跡地の利用推進が課題 ・福岡銀行伊田支店が商店街沿いに移転建設中 ・田川伊田駅前の道路を整備中	・駅前広場から駅東側に通ずる高架橋が完成 ・駅東側の旧三井田川タイル跡地の活用が課題
市民意向 (各商業地に求めるもの)	・田川市の「顔」としてのシンボル機能(30.0%) ・商業施設や娯楽施設が多く立地する賑わい機能(29.2%) ・生活の利便性を高める行政サービス機能(13.1%)	・商業施設や娯楽施設が多く立地する賑わい機能(26.8%) ・医療施設、子育て支援施設、高齢者施設等が立地する医療・福祉機能(24.4%) ・生活の利便性を高める行政サービス機能(15.2%)



# 田川市都市計画マスタープラン

## ③今後の担うべき役割

	田川伊田駅周辺地区	田川後藤寺駅周辺地区
担うべき役割	田川都市圏の中心市街地として、高次都市機能の集積を図り、広域都市拠点に相応しい拠点形成を図る	市民の日常生活を支えるにぎわいのある商業地の形成を図る
取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>高次都市機能の集積、拠点間連携による魅力向上</li> <li>交通結節機能の強化による拠点連携型都市の形成</li> <li>建物の共同化による都市内居住の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>商店街活性化による商業地の魅力づくり</li> <li>建物の共同化による都市内居住の推進</li> </ul>

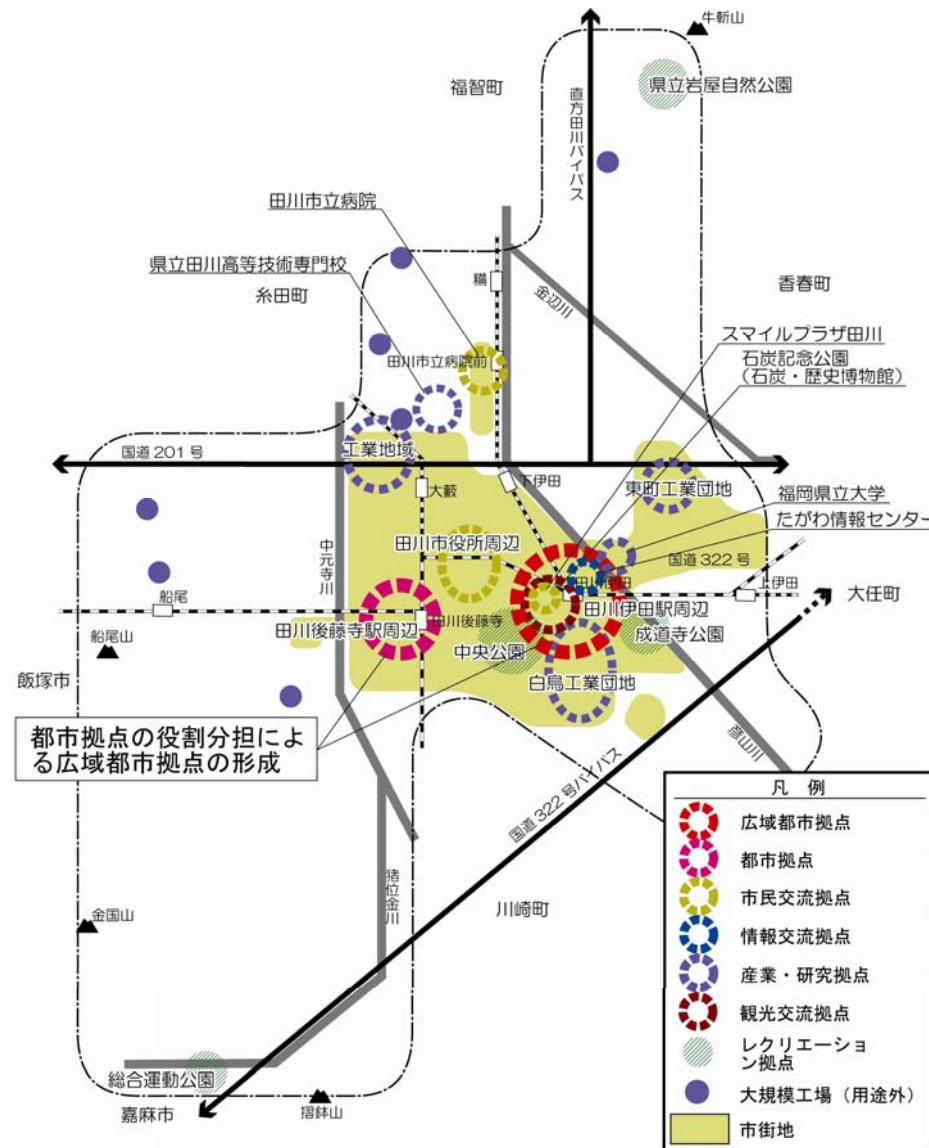
## ④拠点の形成と適正配置

### ○新たな広域都市拠点の形成

田川伊田駅周辺地区と田川後藤寺駅周辺地区は、それぞれの地区の担うべき役割を踏まえ、都市拠点としての役割分担を図るとともに、田川伊田駅周辺地区については田川都市圏の広域都市拠点の形成を図ります。

### ○拠点の位置づけと機能の充実

市街地内を中心として様々な拠点を位置づけ、その機能充実と拠点の魅力づくりに努めます。



## (2) 軸：拠点ネットワークの形成と拠点連携型都市づくり

### ○市街地中心部へのアクセス性の向上

本市の道路網は、市街地縁辺部を通る広域幹線道路から、市街地中心部までのアクセス道路が不足しているため、各方面と中心部を結ぶアクセス道路の整備を進めます。

### ○市街地循環道路の整備

市街地内の各拠点のネットワーク形成を進め、拠点連携による効率的な都市づくりを行う必要があるため、市街地循環道路の整備を進めます。

### ○河川環境軸

中元寺川と彦山川の2つの河川は、本市の市街地を挟むように流れ、市街地内の貴重な自然資源となっていることから、河川環境軸として良好な河川空間の活用を進めます。



# 田川市都市計画マスタープラン

## (3) 将来都市構造

### ① 拠点

#### 【広域都市拠点】

田川都市圏の中心的な役割を担うエリアで、高次都市機能が集積する中心市街地として、田川伊田駅周辺地区を位置づけます。

#### 【都市拠点】

市民の生活を支える機能が集積し、日常的な買物を中心とする賑わいのある商業空間として、田川後藤寺駅周辺地区を位置づけます。

#### 【市民交流拠点】

公共施設が集積し、多くの市民が交流する場所として、市役所周辺と市立病院、スマイルプラザ田川を位置づけます。

#### 【情報交流拠点】

産学官共同研究や IT 関連産業などの新たな産業構造への転換を図るための情報交流拠点として、たがわ情報センターを位置づけます。

#### 【産業・研究拠点】

製造業などの工業施設が集積し、本市の産業活動の中心的な役割を担うエリアで、福岡県立大学や県立田川高等技術専門学校などの研究機関や大規模な工業団地等を位置づけます。

#### 【観光交流拠点】

本市を代表する歴史・文化などを有し、観光地としての中心的な役割を担うエリアとして、石炭記念公園を位置づけます。

#### 【レクリエーション拠点】

良好な自然環境を活かした市民の交流、休息、余暇を体験できる場所として、中央公園や成道寺公園、県立岩屋自然公園、総合運動公園を位置づけます。

### ② 軸

#### 【広域幹線道路】

広域的な移動を可能とし、他都市との広域連携を担う軸として、国道201号、国道322号バイパス、直方田川バイパスを位置づけます。

#### 【幹線道路】

都市レベルの移動を主目的とし、都市内の各拠点を連携する機能を担う軸で、市街地と広域幹線道路を結ぶ主要道路を位置づけます。

#### 【生活幹線道路】

地域住民の日常生活における移動を主目的とし、地域の主要な生活道路を位置づけます。

#### 【市街地循環路線】

市街地内の拠点連携による効率的な都市づくりを支える路線であり、拠点間ネットワークを形成する路線として位置づけます。

### ③ 土地利用

#### 【市街地】

既に市街地が形成されており、今後も建築物や都市機能の立地誘導を図る区域で、用途地域が指定されている区域を位置づけます。

#### 【集落地】

市街化の圧力が低く、特に土地利用を誘導する必要がない区域で、用途地域外に形成された既存の集落地を位置づけます。

#### 【農地】

優良な農地及び農林業等の集落が形成されており、これらの環境の維持・保全を図る区域で、まとまった農地と田園集落を位置づけます。

#### 【山地・緑地】

森林や里山等による都市の良好な自然環境の維持に資する区域で、本市の南部や北部に広がる山地や市街地周辺の丘陵地を位置づけます。

## 将来都市構造図

